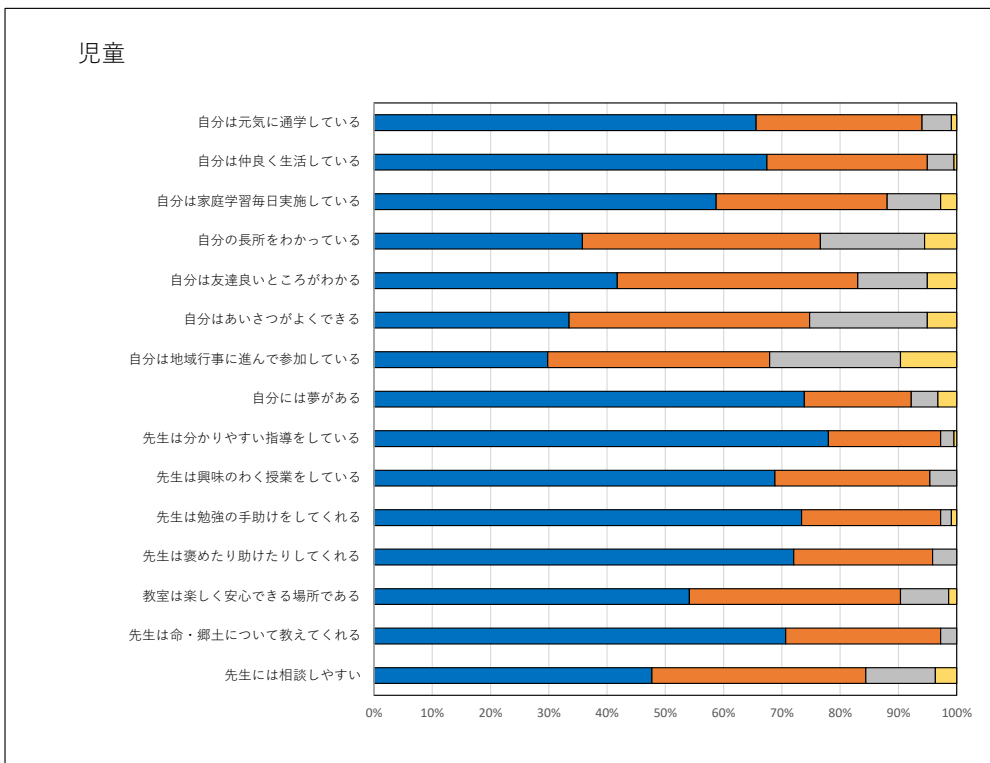
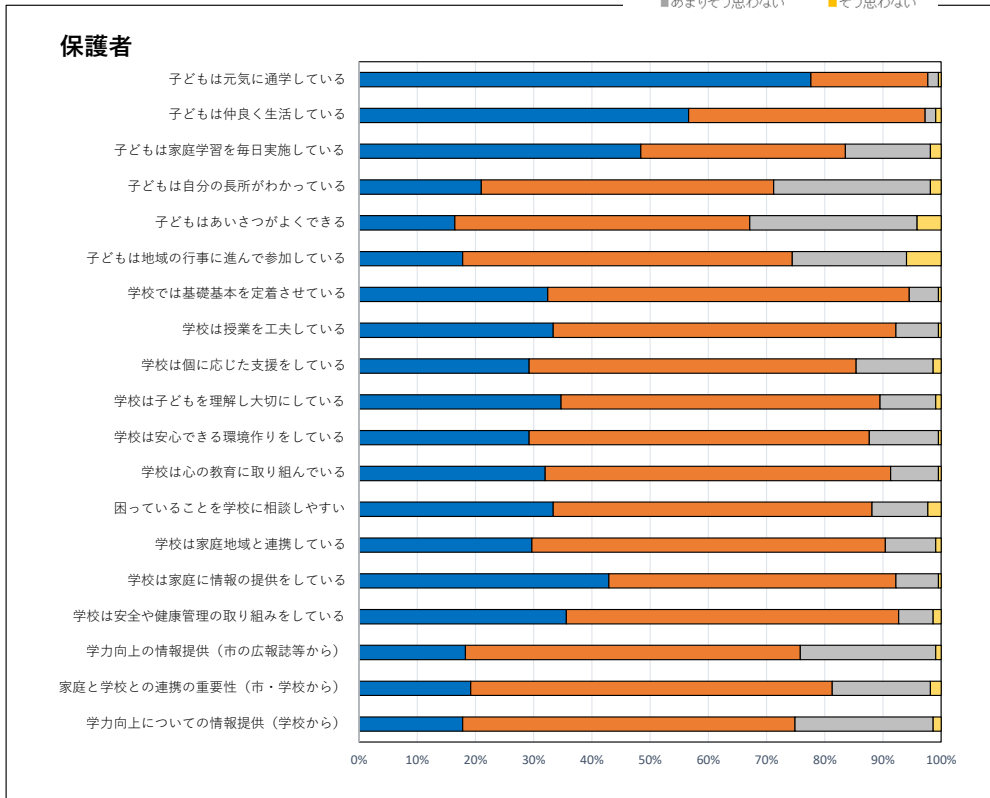


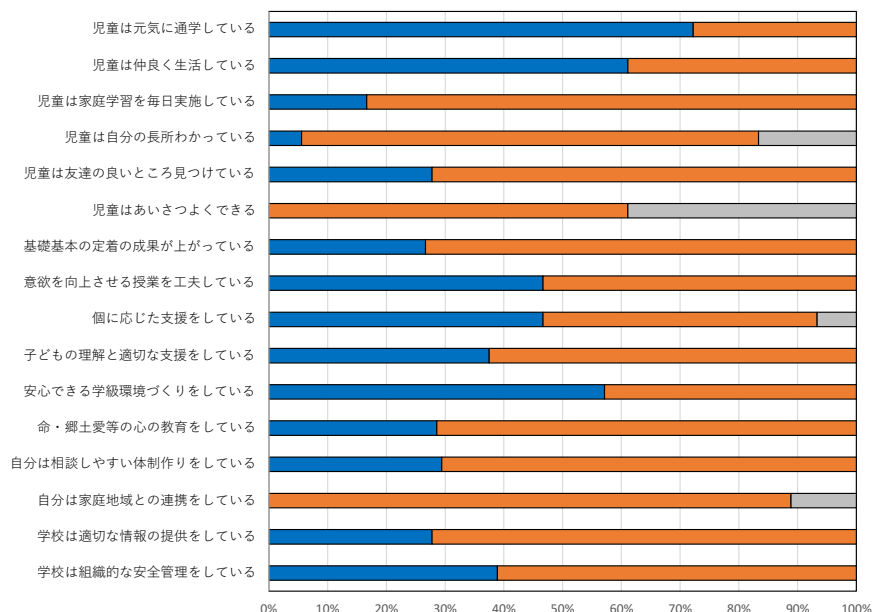
3.学校評価(令和元年度 第2回目)

ここでは、1月に実施した令和元年度の第2回目の保護者・児童からの学校評価と教員の自己評価についてお知らせしています。集計の結果から、『そう思う』+『まあそう思う』を【良い点】、『あまりそう思わない』+『そう思わない』を【改善点】と捉え、分けて記述しました。お忙しい中、評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

■そう思う ■まあそう思う
■あまりそう思わない ■そう思わない



教職員



回答に対し、「そう思う」「まあそう思う」を肯定的な意見、「あまりそう思わない」「そう思わない」を改善を要する意見としてとらえました。

【良い点】

- ・児童、保護者とも「分かりやすい授業」「興味のわく授業」「勉強の手助け」の授業に関する回答が全て肯定的な回答でした。担任・英語専科・ALTの3人体制で展開する英語学習、児童が互いの意見を交換し合う主体的な学び、タブレットの活用に取り組んでいるプログラミング教育等、授業改善に取り組んできた結果だと思えます。
- ・児童、保護者、教員とも、「自分は元気に通学している」「自分は仲良く生活している」が、高い肯定感を示しました。今後も安全・安心で児童の元気な声に満ちた学校を目指していきます。
- ・児童は「先生は、褒めたり助けたりしてくれる」「命・郷土について教えてくれる」に肯定的な回答でした。児童一人ひとりを認め伸ばしていこうとする教職員のスタンス、道徳の授業を中心としながら全教科で取り組んできた情操教育の成果と感じました。

【改善点】

- ・児童、保護者とも「地域行事に進んで参加している」は、前回よりポイントは上がりましたが肯定感が低かったです。少年団活動やレジャーの多様化など時代の変化もありますが、地域の盛り上げのため公民館等と連携して、児童の参加率アップを目指していきます。
- ・「あいさつ」について保護者・教員の回答は、改善を要するものでした。校内では大きな声であいさつができて、校外（地域社会）のできる児童は減ってしまいます。あいさつは地域社会でできてこそそのものです。今後も家庭地域共々、根気強く児童への声かけをしていきたいと思えます。